

● 管理釣り場・野釣り場

両ダンゴの チョーチン釣りの

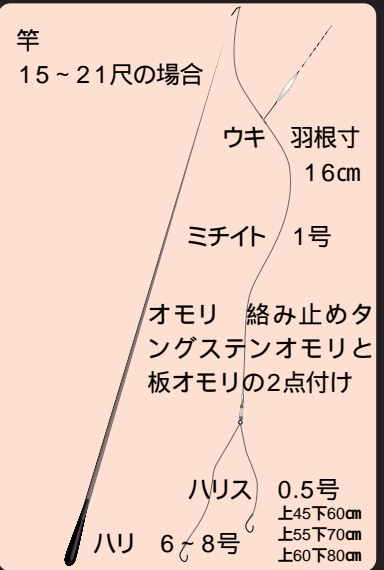
最近の傾向

竿いっぱいの中を攻めるチョーチン釣りは、両ダンゴ釣りの代表的な基本型のひとつといえるだろう。8〜9尺の短竿にせよ、18尺以上の長竿にせよ、自分が狙うタナにへら鮒を寄せ、崩れにくい釣りを展開できたとき、チョーチン釣りは最も威力を発揮する。その日の一番釣れるタナを探すこと、すなわち竿の選択というのがチョーチン釣りの

大切な要素のひとつだが、どんな素材でエサを作り、どんなタッチに持っていくかということも重要だ。その上で、ウキやハリスの長さなど、仕掛けのバランスも考える必要がある。エサを中心に、複合的に問題を解決していくと、チョーチン釣りはより楽しくなるだろう。

エサに関していえば、昨年あたりから傾向は固まってきたようだ。かつてはチョーチン・イコール・ボソというイ

両ダンゴのチョーチン釣りの基本タックル



エサ 実寸大



メージだったが、軽ネバ系のエサで決まるようになってきている。それは今年も同様だろう。ぜひ、今シーズンは、現在の釣りにマッチしたダンゴエサ「天々」をメインに使ってみてほしい。

オモリ 実寸大

エサの大きさ
直径2～2.5cm大

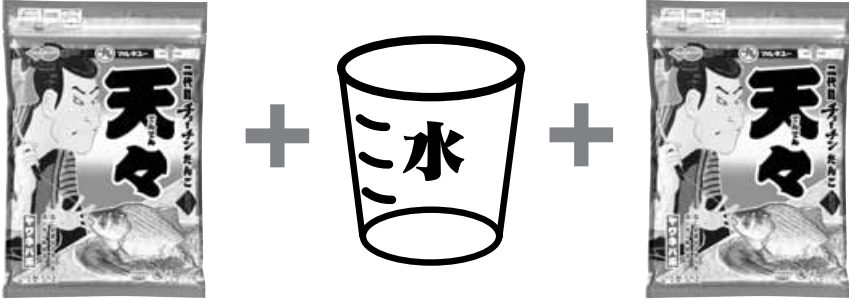
オモリのサイズ
絡み止めタングステンオモリ1g1個と0.25mm厚板オモリを1～3cm



単品使いからはじめよう!

①基本パターン

天々600cc + 水200cc + 天々200cc



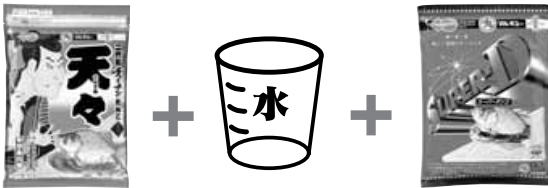
基本は「天々」600ccに水200cc。最後に「天々」200ccでシメる「天々」の単品作りから入ってみよう。このエサをテンポよく打つことで、アタリが出て釣れ出すことが多い。

「天々」を単品で決められないときは、「天々」を主材に、バラケる、粘るなどの特長を持った別のシメエサを加えて作り直してみたい。

もっとウキを動かしたい!

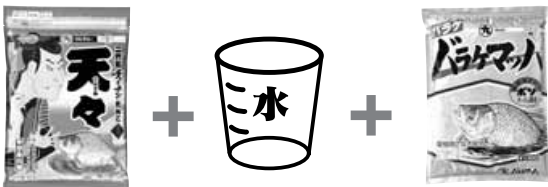
②バラケ性のあるエサをブレンド

天々600cc + 水200cc + スーパーダンゴ200cc



「天々」単品の基本エサを打ち続けても、へら鮎の寄りが少なく、アタリが少ないときは、最後のシメにバラケ性の高いエサを使うのが基本だ。「天々」に高い集魚効果をプラスするなら、「スーパーダンゴ」使ってみよう。軽く、バラケ性に富んでいるのが「スーパーダンゴ」の特長。これを加えることで、集魚力が大きくアップする。

天々600cc + 水200cc + バラケマツハ200cc



チョーチン釣りは、自分の釣るタナにへら鮎を寄せることが大切。ウズリを抑え、タナを落ち着かせて寄せていきたい。へら鮎がウズリしやすいような釣り場では、「バラケマツハ」をシメに使ってみよう。タテ方向にバラケるのが特長の「バラケマツハ」を使うことで、タナを落ち着かせながらへら鮎を寄せることができる。

注意!

「スーパーダンゴ」や「バラケマツハ」といったバラケ性の高いエサを加えたときは、ウキのなじみ幅に注意しよう。たとえよくバラけるエサでも、タナまで持たせてしっかりウキをなじませること。なじまないときは、エサを練りこんだり、少し硬めにすることで対処してほしい。

ウキがなじまない!

③ 重さとネバリで対応する

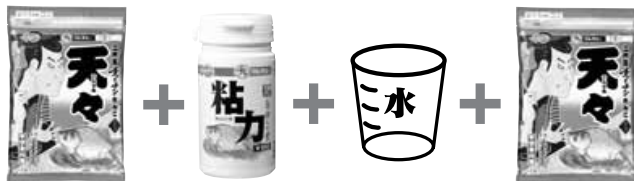
天々600cc + 水200cc + ダンゴの底釣り夏140cc



ウキがなじまない原因で第一に考えられるのは、エサが軽いということ。「天々」単品の基本エサをもっと重くしたいときは、「ダンゴの底釣り夏」を使ってみよう。「ダンゴの底釣り夏」を使ってエサを重くしたら、ウキはなじむようになったものの、アタリが出ない。エサが重くなりすぎると、こんな状態になることがある。そんなときは「グルバラ」200ccを水200ccで溶き、「天々」600ccで作ってみよう。この方が重みの加わり方は少なくなるが、ネバリが出るのでウキはなじみやすい。



天々600cc + 粘カスプーン一杯 + 水200cc + 天々200cc



重さではなく、バラケ性を抑える方向でウキをなじませると、効果が出ることもある。そんなときは「粘カ」を使ってみよう。もう少しエサを軽くしてバラケ性を抑え、ウキをなじませたいときは、「天々」600ccに水200cc、そしてシメに「バラケバインダー」200ccを使うとよい。エサを粘らせて持たせるときは、硬いエサはカラツンになりやすい。やわらかく修正していくと高釣果につながるだろう。



決めアタリが出ない!

④ バラケ過ぎのエサをまとめる

天々600cc + 水200cc + 特S 200cc



サワリだけで決めないとき、原因はエサのバラケ過ぎが考えられる。エサをまとめる素材をシメに使ってみよう。エサに重みを加えて、まとまりをよくしたいときは、「特S」が効果を発揮する。

天々600cc + 水200cc + 軽麸200cc



エサを重くせずに、まとまりをよくしたい場合は「軽麸」を使ってみよう。

注意!

バラケ過ぎとは反対に、エサにバラケ性が不足しているために、サワリだけで決めないということもある。そういうときは「バラケマッハ」を入れるパターン「天々」600cc + 水200cc + 「バラケマッハ」200ccをお勧めする。

カラツン解消!

⑤ 持ち過ぎ、バラケ過ぎを見極めよう

天々600cc + 水200cc + 白べら200cc



カラツンは、エサの持ち過ぎが原因の場合が多い。これを解消するには、エサをやわらかくしていくのが基本だが、バラケ性を高めるために、「スーパーダンゴ」や「バラケマツハ」をシメにして作り直すのも効果がある。ブレンドを参考に。

あるいはエサがバラケ過ぎているために、カラツンが出ていることもある。この場合は「白べら」をシメに使ってみよう。このエサはかなりの練り込みにも耐えてくれるのが特長。練ることでバラケ性を徐々に抑えていくことができる。釣り場を問わず試してほしい。

注意!

カラツン防止策として、エサ付けを小さくするという手段がある。ただし小さいエサはへら鮪の寄りを少なくし、アタリが遠のくことにもつながりやすい。へら鮪の寄りを保つため、チョーチン釣りでは小エサを避け、ある程度大きさのエサを打ち続けたい。

また、カラツンはハリスの長さを変えることで解消できることもある。分かりやすくいうと、長いハリスはエサのバラケを促進させ、短いハリスはエサを持たせやすくする。エサの作り替えとともに、ハリスの長さも組み合わせて考えていくと、さらに高い効果が得られるだろう。

現在の釣りにマッチしたダンゴエサ

天々

最近のチョーチン釣りの傾向をにらみ、管理釣り場から山上湖まで幅広く使えるように開発されたのが天々だ。軽いヤワネバ系で、タナまでしっかり持ち、早いアタリで攻めていけるという、今のチョーチン釣りに求められる基本性能を、理想的に持たせている。

このエサを知るには、まず単品作りで使ってみること。

チョーチン釣りなら.....



浅ダナ釣りなら.....

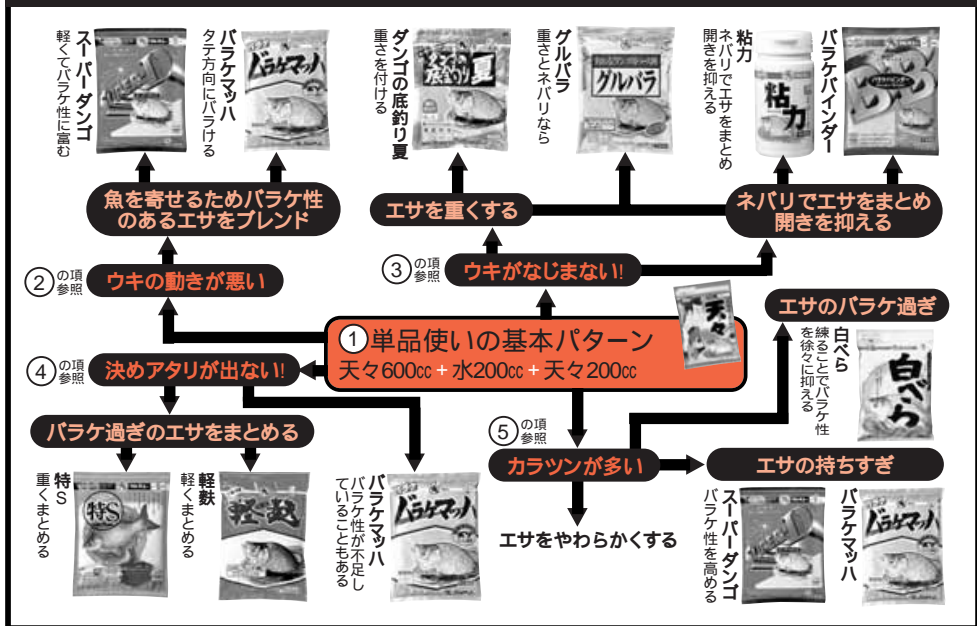


そして状況がつかめたら、「天々」3に対し、他のエサ1の割合で作り替えていくと、よく釣れるエサになるはずだ。

さらには、「天々」2に対し、バラケ性のある軟エサを2で作ると、浅ダナの釣りにも有効なエサになってくれる。この割合のエサ作りは、チョーチンにももちろん使えるので、ぜひ試してほしい。



チョーチン釣りエサブレンドチャート



軽めに使うのがコツだよ

ペレット系も効果大!

宙ペレ50cc + 水200cc + 白べら400cc
+ 軽麩400cc



+



+



+



ペレットを使った宙釣りといえば、長い竿で浅めのタナを攻める“ペレ宙”が知られているが、チョーチン釣りでもペレットは有効だ。“ペレ宙”が効く釣り場はもちろんだが、効かないところでチョーチン釣りなら効くことがある。大型魚中心の管理釣り場は特に効果的になる。

チョーチン釣りではペレットを使うとき、タナが深くなる分だけ浅タナよりエサを重くしたくなるかもしれない。しかし多くの場合、タッチは別にしてペレットの量は浅いタナより少なくし、軽めにした方がチョーチン釣りには有効になることが多い。

注意!

このブレンドは、「宙ペレ」と麩エサの量が変わると、重さのバランスが変わってしまうので、配合比を変えずに水の量でタッチを調整する。また、「宙ペレ」の代わりに「粒粒 細粒」を使うと、ネバリが少なく軽めのエサになる

